令和五年度　全日本中学生水の作文コンクール愛媛大会

知事賞　激励賞　中央審査　佳作

「水との関わりの大切さ」

新居浜市立中萩中学校　三年　宗近（むねちか）　胡音和（ことわ）

私の祖母の家は山奥にある。私は自然が好きだ。家のまわりは木々に囲まれており、あちらこちらから鳥や虫の鳴き声が聞こえる。空気がおいしくて、吸い込むととてもすがすがしい気持ちになる。そんな場所にあるため、水道網は整備されていない。では、どうやって水を得ているのだろう。祖母に尋ねてみると、井戸水を使っているのだということを知った。

井戸水について興味をもった私は、もう少し詳しく祖母に聞くことにした。昔は周辺にもいくつか家があり、共同で水を使っていたそうだ。井戸水には限りがある。そのため、どこかの家で風呂の利用に水を溢れるまで入れてしまったなどの「水の無駄遣い」をした場合、井戸の中はたちまち空になってしまう。そうなると他の家までも水が使えなくなってしまう、ということがたまにあったそうだ。

一人でも水を使いすぎたせいで、他の人にも影響する。このことは、水道水を使う私達にも当てはまることだと思う。私達のもとに水が届き、そして使った水が川へ戻されるまでにはいくつかの施設を通る。その各施設で、一体どれくらいの電力が使われているのだろう。電力を消費するということは、二酸化炭素を出すことになる。「水の無駄遣い」という小さな問題が「地球温暖化」という大きな問題につながっているのだ。もちろんこれ以外にも、色々な悪影響を及ぼす。水を使う時は、こういった問題に対する意識も大切だと思う。

世界には、複数の国をまたがって流れる国際河川が、約二百六十本ある。自国に国際河川が流れる国は、約百四十か国あり、水をめぐる争いの多くがこうした川の流域でおきているそうだ。原因は、上流の

国による水の使いすぎや汚染。これにより、下流の国で使える水の量が減るため争いが起こるのだという。私はこのことを知って、祖母の家での井戸水の出来事と重なった。水は生きる上で欠かせないものだからこそ、誰かが独り占めしてはいけないのだと思った。みんなで分かち合わなければいけないものである。

だが、現状はそうではないということも、水について調べるうちに改めて感じた。世界には、安全に管理された水がない、トイレなどの衛生設備が整っていないなどの過酷な環境で生きる人が大勢いる。不衛生な生活は、感染症が起こる原因にもなり、多くの人の命を奪うことになる。

世界中の誰もが安全な水を使える未来を実現させるためには、先進国の協力が求められる。日本の水処理技術は、既に多くの国で導入が進められているそうだ。こうした技術を伝えることで、開発途上国の水不足解決につながるというのは、とても喜ばしいことだと思う。しかし、日本が水を大量に輸入していることが、世界の水不足につながっているそうだ。水資源に恵まれているはずの日本が輸入をしているとは、一体どういうことだろう。詳しくみてみると、どうやら日本が輸入する食料を作るために使う水を指しているようだ。確かに、外国で生産された食べ物を消費することは食料生産に使われた外国の水を消費することになる。日本の食と水問題が関係しているだなんて、今まで考えもしなかったので驚いた。色々な事実や考え方を知ることも、私達ができることの一つだと思った。

この作文を通して、水がどれほど大切なものなのかを知ったと共に、限りある資源を守らなければならないと強く感じた。水問題は、人に限らず全ての生き物に影響する。蛇口をひねって出てくる水は、自分だけのものではないのだと実感した。小さな問題が大きな問題につながるだけではなく、小さな行いも大きな解決につながるはずだ。多くの人が救われるように、そして大好きな自然を守っていくためにも、自分のできることをしていきたいと思う。